

# 第2回 新たな都市像検討委員会

日時：令和5年7月14日（金） 10：00～  
会場：金沢市役所 第二本庁舎 2301会議室

## 第2回 新たな都市像検討委員会

日時：令和5年7月14日（金） 10：00～11：30

会場：金沢市役所第二本庁舎 3階 2301会議室

### 次 第

- 1 開 会
- 2 市長挨拶
- 3 議 題  
新たな都市像の構成案について
- 4 閉 会

#### 【資料】

資料1 新たな都市像の構成案について

# 新たな都市像の構成案について

---

# 策定の趣旨・背景

## 策定の趣旨

- ・ **本市を取り巻く環境の変化を踏まえ、視座を世界に、20年先、30年先の将来をも見据え、概ね10年後を目標年次とする新たなまちづくりの指針を策定**
- ・ 金沢市の最上位の基本理念である「金沢市基本構想」（S60年3月議決）に掲げられた「市民主体」「豊かな人間環境の構築」「国際的文化産業都市」は、**先人達より継承された、本市の歴史や個性、価値観を礎とした普遍的な考え方であり、引き続き継承**

## 市政を取り巻く環境の変化

- ・ **人口減少・少子高齢化の進展**（生産年齢人口の減少）
- ・ **コロナ禍を経た意識・価値観の変容**（働き方、住まい方、消費行動など）
- ・ **北陸新幹線の延伸**（2024年春・敦賀開業、大阪までの全線開業） など

## 各分野への横断的視点

- ・ 本市の**文化を強みに多様な分野への活用**
- ・ 若い世代、移住者、民間企業など、**地域に関わる多様な人々の視点・活力の活用**
- ・ あらゆる分野における**デジタル化の推進**

# 新たな都市像の構成

金沢市基本構想（S60年3月議決）

新たな都市像

本市がめざすべき将来像

基本方針 1  
(魅力づくり)

基本方針 2  
(暮らしづくり)

基本方針 3  
(人づくり)

基本方針 4  
(仕事づくり)

基本方針 5  
(都市づくり)

新たな都市像を具現化する行動計画

# 将来像の柱となる5つの基本方針（案）

検討委員会、市民アンケート、ワークショップ等の主な意見を整理し、将来像の柱となる5つの基本方針を取りまとめ

基本方針 1. **世界に誇る伝統と創造の文化が息づくまち** (魅力づくり)

基本方針 2. **多様な人が共生し、心豊かに暮らせるまち** (暮らしづくり)

基本方針 3. **共に学び、未来を拓く人を育むまち** (人づくり)

基本方針 4. **創造・変革により成長するまち** (仕事づくり)

基本方針 5. **活力と個性があふれ、安全で持続可能なまち** (都市づくり)

# 基本方針の構成案

## 基本方針 1. 世界に誇る伝統と創造の文化が息づくまち (魅力づくり)

### (1) 文化芸術による豊かな心と創造力の醸成

- ・ 子どもや若い世代が文化や芸術に触れる機会の充実
- ・ 働く場と豊かな文化体験ができる場が近接する生活環境の充実
- ・ 「する」「観る」「支える」「応援する」「語る」など、様々な文化的活動の充実 など

### (2) 歴史と伝統に培われた文化の継承・発展

- ・ 伝統文化の担い手育成と持続的な発展
- ・ 世界が認める食文化都市の発信
- ・ 金澤町家の保全・活用と歴史文化遺産の魅力発信
- ・ 品格あるまちなみの保全と魅力的な夜間景観の創出 など

### (3) 都市の品格と重力が両立する魅力あふれるまちづくり

- ・ 城下町として残る上質な文化の磨き上げ
- ・ デジタル技術を活用した、気軽に文化体験ができるしくみづくり
- ・ 文化・芸術・スポーツの活動基盤の整備
- ・ 多様な文化の創造・発信 など

### (4) 世界の人々が憧れ滞在する歴史・文化のまちづくり

- ・ まちの個性を活かした文化観光の推進
- ・ 新しい時代に対応した世界の工芸都市の発信
- ・ ほんものの魅力発信と受入環境の充実
- ・ 住む人と訪れる人が文化や暮らしの価値を共有し、共に高めていける観光の推進 など

## 基本方針 2. 多様な人が共生し、心豊かに暮らせるまち (暮らしづくり)

### (1) 多様な主体が参加する持続可能な地域コミュニティの形成

- ・ 民間や学生など多様な主体と連携した地域コミュニティの活性化
- ・ 地域への誇りや愛着を醸成する地域文化活動への参加促進
- ・ 多様性を認め合う地域社会の実現
- ・ D Xの推進による地域活動の活性化と行政サービスの充実 など

### (2) 健康で心豊かに暮らせるまちづくり

- ・ 未病対策の推進による健康都市の実現
- ・ 医療体制の充実・強化
- ・ 感染症など健康危機管理への対応
- ・ 文化・芸術活動を通じた絆づくり など

### (3) 誰もが安心して共に暮らせるまちづくり

- ・ 豊かな福祉意識の醸成
- ・ 多様な主体が連携し支え合う福祉の地域づくり
- ・ 障害の有無に関わらず安心して暮らせる共生社会の実現
- ・ デジタル技術の活用による福祉サービスの充実・強化 など

### (4) 市民の安全・安心と環境に配慮したまちづくり

- ・ 自助、共助、公助による地域防災力の強化
- ・ 安全・安心な暮らしの実現
- ・ 資源循環型社会の形成とG Xの推進
- ・ 次世代への継承に向けた自然環境の保全 など



## 基本方針 3. 共に学び、未来を拓く人を育むまち

(人づくり)

### (1) 学都の強みを活かした産業や暮らしの担い手の育成

- ・ 学生・若者の社会参画と次代を担う人材の発掘・育成
- ・ 男女が共に活躍できる社会の実現
- ・ デジタル人材の育成 など

### (2) 地域・企業等との連携による子育て環境の充実

- ・ 切れ目のない子育て支援の充実・強化
- ・ 地域コミュニティの活力を生かした豊かな子育て環境の充実
- ・ 子どもの地域活動の持続化に向けた環境整備 など

### (3) 文化芸術による情操教育の推進と学びの文化の土壌の形成

- ・ 文化・芸術体験による、子どもの豊かな心と感性の育成
- ・ 新しい時代が求める教育の推進と子どもの生きる力の育成
- ・ 地域の歴史・文化を学ぶ機会の創出
- ・ 人から学ぶ環境の整備 など

## 基本方針 4. 創造・変革により成長するまち

(仕事づくり)

### (1) 新産業の創出とDXの推進

- ・ デジタル技術の活用と、文化・産業の融合による産業活性化
- ・ 産学官金の連携による新たな産業の創出と人材の集積
- ・ 学生、若者、女性をはじめとした多様な人材による挑戦への支援
- ・ 成長分野の企業やクリエイターなどの誘致促進 など

### (2) あらゆる世代の多様な人材の活躍促進

- ・ 多様な働き方を実現する社会の形成
- ・ 優秀な人材の確保とグローバル化への対応
- ・ 労働生産性の向上とデジタル人材の活用 など

### (3) 元気で魅力ある商業環境の形成と地場産業の継承・発展

- ・ 地域の持続可能な発展に向けた魅力的な商店街づくり
- ・ 独創性と多様性に富んだものづくり産業の進展
- ・ 伝統工芸産業の継承・振興 など

### (4) 多様な人材の活躍による農林水産業の振興

- ・ 先端技術の活用による担い手確保や生産技術の向上・継承
- ・ 地元農水産物のブランド力向上と金沢産材の普及促進
- ・ 外部人材による新たな地域資源の発掘と魅力創出 など

# 基本方針の構成案

## 基本方針 5. 活力と個性があふれ、安全で持続可能なまち（都市づくり）

### （1）魅力あふれる都心軸の形成と中心市街地の活性化

- ・ 多様な文化的活動と地域経済が循環する中心市街地の形成
- ・ 居心地よく過ごせる空間の創出とまちなか定住の促進
- ・ 歩行者を中心とした、歩きたくなるまちづくり
- ・ 老朽ビルの建替促進や再開発などによる面的な価値の向上 など

### （2）都市の個性や品格が感じられるまちづくり

- ・ 伝統的まちなみの保全・再生
- ・ 無電柱化による良好な景観形成
- ・ 都市景観の保全と魅力ある景観の創出 など

### （3）活力ある地域づくりと都市の発展基盤の整備

- ・ 外部人材や移住者等の視点の活用による地域力の再生
- ・ 移住・定住の促進と関係人口の拡大
- ・ 都市機能の高度化と広域交通基盤のさらなる充実 など

### （4）公共交通を優先したまちづくり

- ・ 持続可能な交通ネットワークの形成と交通利用環境の向上
- ・ 交通機能の連携強化と交通行動の転換 など

### （5）災害に強く、持続可能な都市運営

- ・ 都市防災機能の向上と安全で快適な生活環境の確保
- ・ 都市基盤施設の最適化と跡地等の有効活用
- ・ 持続可能で活力ある石川中央都市圏の実現 など

# 検討スケジュール

時 期	内 容
令和5年3月24日	準備会合
4月26日	第1回 委員会 (10年後の金沢に向けた意見交換)
5月16日 ~23日	テーマ別意見交換【計5回】 (未来を見据えた10年後の金沢の将来像と 具現化に向けた取組・施策の方向性について) ※各テーマにて開催
7月14日	第2回 検討委員会 開催 (本日) (新たな都市像の構成案について)
8月17日	第3回 検討委員会 開催 (予定)
10月	パブリックコメントの実施
12月	新たな都市像 (案) 市議会上程

## 【参考】

検討委員会、市民アンケート、  
ワークショップ等における  
これまでの意見

# 検討委員会、市民アンケート、ワークショップ等の主な意見（魅力づくり）

- ・金沢ならではの蓄積されてきた文化力による新しい価値の見直しや創造をすることが大切。歴史や伝統の中で蓄積されてきた文化に礎を置いて、新たな都市像を考えていくことが必要だ。
- ・幼少期から文化に触れることで、自然と言動や所作が育まれ、人間形成にも影響する。美しいふるまいが身に付いた人達が多く住むまちは、品格の高いまちとなる。
- ・大学卒業後から結婚するまでの間の世代が、習い事をするようになる施策があるとよい。
- ・金沢は豊かで質の高い文化的体験ができ、仕事も遊びも生活空間もコンパクトに凝縮されているまちだとアピールすることが必要。
- ・技術を消費者に見てもらう機会や交流の機会、小・中・高校で体験の機会の増加などにより、伝統文化や伝統工芸に関わる人材の育成と市場の拡大を図りたい。
- ・伝統芸能など形として残らないものが、世代を超えて受け継がれる仕組みをつくることも重要だ。金沢の重厚さや市民の誇りにつながり、訪れる方も素敵なまちだと感じられるまちづくりが実現する。
- ・以前は、伝統的な芸能・文化の習い事により、親から子へと家庭内にて継承してきたが、社会や家庭環境の変化により減少している。行政や文化団体が基点となり、その機会をつくることが大切だ。
- ・社会の変化が急速なため、伝統芸能・文化の後継者・指導者不足の課題には、早急に対応すべき。
- ・茶道の文化的価値は高く、子どもたちが本物に触れる機会を増やしていく努力が必要だ。
- ・金沢は、ミシュランの星付きレストランの数が世界で14番目に多いだけでなく、新鮮な食材、食材を活かす料理技術、器や作法、庭園、和室の文化があり、総合芸術たる料亭がある。世界を見てもこのようなまちは少なく、美食の街として、世界に向けブランド化したい。
- ・日本酒は、京都との差別化ができる要素の一つだ。広域で考えても、日本酒も含めた北陸の食文化の地位は高い。リーズナブルなものから高品質なものまで様々な日本酒を提供できるとよい。
- ・市内に多く残る歴史ある古い町家は、まちの魅力であるにも関わらず、個人所有の町家は解体されてしまうものも多い。歴史を刻んだまちを壊してしまわないような施策も必要だ。
- ・町家などを活用した新しいビジネスをよそ者が仕掛けることができる仕組みがあるとよい。
- ・県外の人からは、伝統、文化、食、自然が豊かでコンパクトで便利だと言われる。もっと、景観に配慮して、古いものを残しつつ、落ち着いた、素敵なまちになってほしい。

# 検討委員会、市民アンケート、ワークショップ等の主な意見（魅力づくり）

（つづき）

- ・金沢城、兼六園周辺の夜の景観を城下町らしく再現するなど、歴史的遺産の価値観を高め、市民が誇れる金沢をつくっていったら素敵だと思う。
- ・本市には、工芸作家や文化施設が多く存在するが、歴史的遺産やポテンシャルからするとまだ不十分であり、そこが補われ、強みになっていくとよい。
- ・流動性が活気を生むため、芸術面での関係人口の増加に注力することが重要であり、文化芸術組織に対する支援に加え、個人事業者としての芸術家等の活動基盤に対する環境整備が必要。全国に先駆けて金沢モデルを提示できるとよい。
- ・文化が揺るがないように、市民が理解し守っていく必要がある。
- ・文化の担い手達の活動基盤を整え、生計が維持できるようになることが、ひいてはまちの魅力につながる。
- ・文化イベントやスポーツ競技など交流の場や、交通手段の充実などを図り、市民が集い楽しめる環境が整うとよい。
- ・外の空気を吸いながら雨の日でもスポーツができるような屋根付きの施設が増えてほしい。
- ・観光の役割は、これまで守り、育み、磨いてきた魅力を収益化し、市民の生活を豊かにすることだ。
- ・伝統文化を市外の方にも分かりやすく広めていくことが、文化観光の推進においても有意義だ。
- ・デジタル化や海外向けの情報発信など、観光客の滞在日数増加を目指し、伝統工芸と観光産業の連携を図りたい。
- ・魅力の安売りをしないためにも、ターゲット層を明確にし、事業者と共有することが重要。
- ・国も推進している高付加価値旅行者層の誘客には、ハイグレードホテルの誘致や、歴史的な町家や洋館を活用したオーベルジュなど、受入体制を整えることが必要。
- ・MICEは消費単価が高く、特に、企業の報奨旅行（インセンティブツアー）では、特別な体験ができるまちが選ばれる。海外の旅行会社に対し企画力を持ち、強い交渉力で金沢の魅力を引き出す優れたランドオペレーターや、地域資源を生かした旅行商品をコーディネートするDMCが必要。
- ・訪日外国人旅行者を惹きつけるキーワードの一つが「サムライ」であり、歴史的なまちなみや伝統文化などコンテンツを充実し、本物の武家文化が感じられるまちとして京都との差別化を図りたい。
- ・北陸新幹線敦賀延伸により、広域で人を呼び込み、北陸での宿泊数増加に努めるべく、金沢駅を北陸観光のハブとして推進したい。
- ・観光業界や飲食店は人手不足が深刻だ。人手不足に対応するためには生産性を向上させ、需要予測を用いたデータマーケティングを行う必要がある、デジタル化は欠かせない。

# 検討委員会、市民アンケート、ワークショップ等の主な意見（暮らしづくり）

- ・これまで培われてきた文化の蓄積を礎に、地域の豊かな人材を活かし、次の世代へとつないでいけるよう、人と人がつながり合うような仕掛け・仕組みを考えることが大切だ。
- ・時代の変化に対応し、住民自治の持続可能性を向上させるような新たなしくみを検討すべき。
- ・住民だけでなく、企業やNPOが参画し、準町民の様な形で関わる仕組みなど、若者や女性など現状では町会活動に関与が少ない層がどんどん参画できるようになるとよい。
- ・企業やNPOとの協働・連携を進めるためには、各地域・団体をコーディネートする仕組みが重要であり、すでにある市民活動サポートセンターの一層の機能の充実が求められる。
- ・地域ごとの課題解決に向け、住民、行政、民間が集まって課題を検討する場があるとよい。  
町会活動の中で、学生が活躍できるような機会があれば、双方にとってメリットがあるだろう。
- ・学生は学んだことをアウトプットする場があまりなく、地域に生かす場がないかと日頃感じている。  
アウトプットしたい学生と、学生の力がほしい町会や公民館とのマッチングできるとよい。
- ・若い世代と地域の町会の世話役がうまく連携できる仕組みを作っていかなければ、次の世代の担い手に引き継げないのではないかと危惧している。
- ・個人で町会に加入し活動する学生は少ないが、学生団体として地域活動をしている学生は多い。  
地域のイベントなど、学生個人が参加するには心理的ハードルを感じるが、サークルなど団体であれば参加しやすい。
- ・時代が流れとともに地域の伝統が失われつつあるように感じる。  
地域の伝統芸能や祭り料理を、行事等を通じて若い世代や子ども達に伝承していきたい。
- ・障害の有無や環境、国籍、考え方の違い等に関わらず、あらゆる人が安心して、差別や偏見の目にさらされることなく、自分を自分らしく、お互いを認め合い、尊重して生きられるような金沢であってほしい。
- ・多様性を育むため、子育て世代とシニア世代など、新たなつながりや交流が生まれる仕組みづくりができるとよい。
- ・町会の役員の負担を減らし、現役世代でも仕事をしながら参画できるように変更することで重要な地域課題に取り組む余地もでてくる。増えすぎた負担の見直しは行政主導で行うべきだ。



# 検討委員会、市民アンケート、ワークショップ等の主な意見（暮らしづくり）

（つづき）

- ・歴史・文化・学術・医療と最先端研究を融合、産学官金の連携を深めることが重要。
- ・あらゆる人びとがそれぞれ適度な距離感を保ちながら、仕事に楽しみや喜びを感じつつ、文化や芸術、スポーツ、娯楽などに日々の活力をもらえる素敵なまちであってほしい。
- ・障がいのある人の作品を世界へ配信してほしい。
- ・お年寄りも若者も障害者も、誰もが不安なく過ごせる環境を構築するための、サービスや人材確保を充実してほしい。
- ・あらゆる世代に福祉教育を広げたい。子どもたちの健全育成につとめ、大人たちも含めて身近な地域生活課題の解決力向上にもつなげたい。
- ・多様化、複雑化する地域の課題を的確に把握することが大事であり、ITの活用は、課題を明確化し、解決策を導く一助となる。活用範囲は無限であり、普及・開発を行政が支援することが大切だ。
- ・市内でも中山間地域では、過疎化や高齢化が進んでいるところもあり、生活の中でデジタルを活用することにより、生活が便利になるだろう。
- ・デジタルは、支援・補助・サポートするツールであり、福祉は人と人との関係が大事。  
民生委員だけでなく、多様な人々により支え合う地域共生社会の構築が大切だ。
- ・障がいのある人もない人も認め合う、真の共生社会を実現したい。
- ・災害時には、住民同士の連携・協力による助け合いが不可欠だ。  
地域の防災力を高めるためには、町会活動を通じて住民同士のつながりを培うことが求められている。
- ・ゼロカーボンシティをめざしているまちとして、脱酸素の取組はまだまだ出来る事があるのではないか。  
対策が進まない企業や事業者も多い。
- ・太陽光発電やカーシェアリングなどにより、クリーンでエネルギー効率が良い持続可能なまちになるとよい。

# 検討委員会、市民アンケート、ワークショップ等の主な意見（人づくり）

- ・金沢に集まる学生の力を活用すべく、色々な場での学生の参画を促したい。  
若い世代が感じている思いや課題も聞きながら、それぞれの課題解決につながる方策を考えたい。
- ・全国でも有数の高等教育機関の多さだが、多くの学生を巻き込む広がりや定着には至っていない。
- ・学生のボランティアや町会活動への参画の仕組みを整えたい。  
雪かきボランティア以外にも、防災などにおいて、地域と学生団体をつなげるのも一考だ。
- ・「いしかわシティカレッジ」など、学生が学びたい事を学べる環境にあり、学び以外にも学生へのサポートが充実している。これをもっと広く発信できれば、新しいつながりができるだろう。
- ・地域の担い手として、若い世代が年齢や立場に関わらず挑戦できる環境づくりができるとうよい。
- ・学生が活躍できる場が増えればと思う。優秀な学生の卒業後の活躍の場が金沢に少ないので、優秀な若者が活躍できるようになってほしい。
- ・学生が住みやすい街になるとよい。
- ・男尊女卑のない、能力のある人間がその能力を発揮できる環境を与えられる場所になってほしい。
- ・子育て世代への理解が少なく、まだまだ子育てしやすい環境が整っていないと思う。
- ・周囲に頼れる親族がいなくて、地域コミュニティの活用などにより、社会全体で、子どもを育てていけるとよい。  
都心から金沢に移住してもよいと思えるような子育て環境になってほしい。
- ・子育て世代やサポートが必要な人に、必要な情報が届いていない。  
情報があれば、様々な活動に参加できるため、行政がうまくマッチングできる状況を作ってほしい。
- ・家庭でも学校でも自分らしく過ごすことができない子ども達が、気軽に通えるサードプレイスとなる居場所が必要。
- ・学校に行けない、発達障害や医療的ケア児、不登校の児童・生徒などに関してはサポートがまだまだ足りないと感じる。  
生きづらさ、育てづらさを抱える人たちにも目と手を向けていただきたい。

# 検討委員会、市民アンケート、ワークショップ等の主な意見（人づくり）

（つづき）

- ・子どもたちが伸び伸びと育ち、金沢への誇りと愛着が湧くような教育を行い、地元に残ってくれるような人材を育成すべきと思う。
- ・もっと芸術を教育の中にも取り入れていいと思う。小学校や保育園の最新教育を積極的に取り入れ、学力だけでなく唯一無二の人材育成の方へシフトして、積極的に教育にお金をかけていくべき。
- ・教育のレベルの高さは感じるが、格差も感じる。収入に関わらず、質の良い教育が受けられるようになるとよい。
- ・学校運営や教員を日常的にサポートする民間人材の常設活用が、今後必要になる。
- ・日常的に教育を支え、支援する人の労働条件はあまり良くない場合が多い。  
既存のルールを見直し、持続可能な体制を整えることが必要。
- ・人が人から学ぶということは、人として成長していく上で不可欠な営みである。  
今後も、人が人から学ぶ取組や試みを積み重ね、充実させていくことが必要だ。
- ・市民が主体的に学び、学びを活かせる場や事業を創出できるとよい。
- ・公民館活動は、地域の核として様々な人たちに学びの場を与える役割がある。  
学びを深めたい人が学び続けられる仕組みが必要。教育への投資が大切だ。
- ・公民館活動にあまり参加していない若い世代に向けて、魅力ある仕掛けをしていくことが大切。  
地域の歴史・文化をベースに、「寺子屋」のような専門性の高い少人数の塾を設けるのも一考だ。
- ・金沢には、歴史・文化だけでなく、自然も豊富だ。自然を利用して子どもたちが楽しく学ぶ活動が広がると良い。

# 検討委員会、市民アンケート、ワークショップ等の主な意見（仕事づくり）

- ・急速に変化する社会において、普遍的な価値を土台に、金沢らしい新しい価値を生み出していくことが重要だ。
- ・人の生活に不可欠な仕事・発想に関しては発展していくだろう。  
人が生み出す芸術や文化は必ず生き残ると考えられるため、これらを強みにすることも一つの方針だ。
- ・金沢の文化的資源と新しい価値の融合により、交流を生み出す仕組みづくりを検討したい。
- ・伝統産業のビジネス化のためにIT産業と連携・融合することが必要。
- ・あらゆる人を受け入れ、認め合い、協力することで大きな力になり、そして新たなビジネスが生み出される。
- ・よそ者を受け入れる環境と、地元の方をつなぐ仕組みを形成することが、新たな変革につながる。
- ・金沢の魅力を更に高めてくためには、今後、内部経済をどのように強化していくかが課題だ。  
若い世代や、65歳以上の高齢者の方々がチャレンジできる機会の創出に注力することが必要だ。
- ・起業支援制度が多くあるが、若者や学生には認知されていない。学生団体と連携して周知することができれば広がりやすく、若者の起業が増え、金沢全体の起業しやすい雰囲気づくりにつながる。
- ・DXを推進するだけでなく、IT等先端技術を有する人材が多く必要である。
- ・IT等先端技術を有する人材に、どうしたら金沢で働きたいと思ってもらえるかを考える必要がある。  
学生が望む条件に合う企業や仕事があれば、金沢で働き住みたい学生が増えるだろう。
- ・DXにより効率化が進む企業は学生に人気があり、対応できていない企業は学生からの評価は低い。  
今後、企業のDXは当たり前となり、さらに学生を惹きつけるものが必要となっていくだろう。
- ・金沢には、全国的、国際的な取組を行う企業が多くあるが、若い世代に伝わっていない。
- ・年代によって価値観が大きく異なるため、これからの若者達に求められる企業体制や体質について若者から聞き取りをしながら考えるとともに、付随するスキル向上の支援等が必要になる。
- ・若者達は、ワークライフバランスがとれた生活を重んじる傾向がある。

# 検討委員会、市民アンケート、ワークショップ等の主な意見（仕事づくり）

（つづき）

- ・どのような企業が今後、生き残り、成長するか、また、成長分野に入っていくかの見極めが重要だ。
- ・金沢では、工業等の基盤技術を成長分野の一つとして考えてよい。  
成長分野の起業支援や企業誘致を行い、金沢らしい強みを活かした仕事を創出していく必要がある。
- ・様々な技術の活用により、今後ますます多様な働き方が可能になっていく。  
従来の働き方の枠や考え方に囚われることなく、多様な働き方を認める社会となるべく、行政や地域が率先して価値観の変革を促していくことが必要だ。
- ・自由な働き方の推進により、企業や人材の集積を促進するとともに、女性の地位向上を図りたい。
- ・中小企業を含む、全ての企業においてグローバル化が求められ、グローバル人材を育てる必要がある。  
留学する人への支援に加え、金沢に戻ってきてもらうための魅力的な地盤や奨励制度の整備が必要だ。
- ・地場産業の中に、IT等先端技術を有する人材の登用を推進し、従来の働き方を打破する必要がある。
- ・伝統工芸や地域の産業が、単に維持されるだけでなく、より成長でき、地場産業をもとに自ら経済的に発展する街になるとよい。
- ・若者の集積を促す方策の一つとして、産学官金連携の仕組みが有効であり、就農にも活用できる。  
農業分野にIT技術を活かしていく際に、産学連携の共同研究を立上げ、それに参加する学生とのつながりをつくり関心を高め、就農へとつなげることができる。
- ・農業体験を経験して移住・就農する方も多く、就農体験などの機会の創出により、新規学卒者以外の就農も期待できるだろう。

# 検討委員会、市民アンケート、ワークショップ等の主な意見（都市づくり）

- ・文化を軸としたまちづくりは、これからも揺るがせてはいけない。  
中心部に文化を呼び込むような仕掛けをどのように行うか、県市が連携し考えなければならない。
- ・多様な市民の暮らしの充実と、来街者への魅力発信による、まちなかの賑わい創出に取り組みたい。
- ・中心市街地を含む商業ゾーンをどのように活性化していくかは、都市像を考える上でも重要な視点だ。  
金沢のまちの良さを議論する中で、中心市街地の新しい未来像についても具体的に考えるべきだ。
- ・郊外に次々と大型のショッピングセンターが開業し、中心商店街が苦戦している。  
シャッター街とならないよう、中心商店街が賑わうまちづくりが必要である。
- ・中心市街地の老朽化した建物への対策が必要。
- ・まちの再開発だけでなく、古い建物をいかに魅力的に再生させるかが重要だ。
- ・道路空間の新たな利活用には、道路空間とビルを一体としてとらえ、魅力的に再生する取組も必要だ。
- ・屋内だけでなく、屋外のオープンスペースなども活用した豊かな暮らしがまち全体へ広がってほしい。
- ・憩いの場は、賑わいの創出だけでなく、有事の際の防災や避難の大切な空間でもあるため、中心市街地で働き、住み、憩うまちを実現してほしい。
- ・他都市に比べ、金沢はかなり車に依存しているように感じられる。  
ウォーカブルな都市づくり目指すためには、人間中心の都市づくりを考えていく必要がある。
- ・歩いて楽しい空間づくりを進めるためには、公共交通や自家用車のあり方を再度議論する必要がある。
- ・金沢の景観、歴史の文化的都市の景観を大切にしてほしい。新しいものと、古いものの混在もいいが、大切にすべき歴史的な景観を崩してほしくない。
- ・中山間地や市街地調整区域において、活動・仕事の拠点として求める若い方を後押しするためにも、市街化調整区域にあっては、地域の高齢化率を勘案した柔軟な対応や工夫ができないか。
- ・県外出身の学生が、卒業後も金沢に就職等で留まってもらうための対策に重点を置いてはどうか。  
情報の周知や連携など工夫も必要。
- ・卒業後、就職等により金沢に留まることで、いずれは金沢での結婚や定住につながりやすい。



# 検討委員会、市民アンケート、ワークショップ等の主な意見（都市づくり）

（つづき）

- ・インターネットを介した、まちの魅力や多様なコンテンツの発信により、金沢への関心を高め、訪れてもらい、関係人口を増やしていく施策も一考だ。
- ・陸、海、空の広域交通基盤の、より一層の向上、広域での連携を期待する。
- ・初めて金沢に来る人には、路線バスは分かりにくく、郊外に行くほどバスの利便性が低く感じられる。まちなかにも、駅のバスセンターのようなバスを整理する場所があると、利便性向上につながる。
- ・採算がとれない路線を、減便以外の手段で簡易化・効率化するとともに、多様な人の利用を促すことにより、高齢者の外出促進や経済の活性化につながったという、他都市の事例も有効だろう。
- ・イギリスでは、土日のバス減便にあわせ文化施設を無料開放するなど、上手に施策を組み合わせている。まちの魅力を発信するための方法と交通施策を組み合わせることも一つの方策だ。
- ・自家用車がないと生活しにくい点が、若者が金沢に来る際のひとつの障壁となっている。車がなくても自由に生活できるまちとして押し出していくような施策が必要だ。
- ・免許返納後のバス等の交通手段が心配。免許返納を見据え、中心部へは行けるが、郊外の公共機関の横のつながりがなく不便。公共交通サービスの充実を希望する。
- ・空き家を活用し、若い世代と高齢者のつながりをつくるコミュニティ活動の場や、子育て世帯を増やす取組ができるとうい。
- ・老朽化したものが更新されて訪れるにも安全な街、住んで安全な街であること。
- ・現在のまちなみを保ちながら、災害に備える力をつけるべき。
- ・建物の移転等により、今後増えると想定されるまちなかの跡地の利用について、県市が連携し、十分議論を尽くして検討しなければいけない。
- ・学校跡地の利活用については、コミュニティの場として使うことも一考だろう。  
「金沢未来のまち創造館」は、若者の働く場所やコワーキングスペース、各種イベントの会場として活用されており、その他の旧校舎も同様な使い方ができるだろう。